

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所
 【現地駐在】TTB銀行(タイ・バンコク)、HD銀行(ベトナム・ホーチミン)



【ベトナム】

日系企業進出動向

はじめに：2023年は日越外交関係樹立50周年と節目の年であり、秋篠宮ご夫妻の訪越や、ポー・バン・トゥオン国家主席の訪日、両国関係の「包括的戦略的パートナーシップ」への格上げ等日越両国にとって記念すべき1年となりました。今回のアジアニュースでは近年の日系企業進出動向についてご紹介いたします。

日系企業進出数の推移：外務省「海外進出日系企業拠点数調査」によると2022年末時点のベトナム進出日系企業拠点総数は2,373拠点となっております。米中対立による製造業のサプライチェーン再構築において地理的優位性や交易環境のメリットからベトナムは有望な投資先として再注目されていることに加え、市場規模や成長性から消費市場としても有望視されており、小売・卸売業の進出件数が増加しています。

日系企業の今後の事業展開：JETRO 2022年度「海外進出日系企業実態調査」によると在ベトナムの日系企業の6割が今後1~2年で事業を拡大する方針であり、拡大意欲はASEANで第一位となっています。また、海外展開をしている日本企業のうち、ベトナムでの事業展開を検討する企業は米国に次いで第二位と、多くの日系企業がベトナムを重要視していることが窺えます。

ベトナム進出におけるメリットと注意点：ベトナム進出のメリットと注意点については主に右の3つが挙げられます。ベトナムで事業を行う上でメリットを最大限に活かし、注意点を回避するためには、ベトナムという国とベトナム人への理解がなにより重要であると言えます。

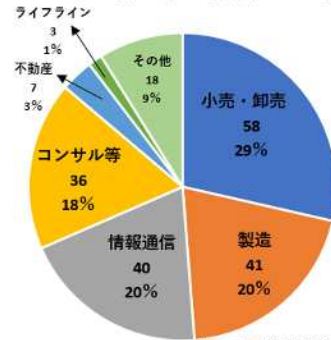
おわりに：2022年後半以降、世界的な景気後退による輸出低迷や不動産ディベロッパーの不正社債取引に起因した不動産、建設業界の不況など暗い話題もありましたが、付加価値税の一時的な引き下げなど財政政策による個人消費の下支えや観光客の増加からGDP成長率は回復傾向にあります。また、依然として日系企業含む海外からの投資先として関心も強くベトナムのポテンシャルはまだ高いと言えます。山口フィナンシャルグループでは海外への事業展開にご興味があるお客様のサポートを行っておりますので、お気軽にお取引店または営業戦略部法人事業室海外事業グループまでお問い合わせください。

(山口フィナンシャルグループ 海外外向【ベトナム】 繁本 康平)



※外務省「海外進出日系企業拠点数調査」を基に筆者作成

2022年進出日系企業業種別内訳



※JETROビジネス短信を基に筆者作成

ベトナム進出3つのメリット

<p>豊富な労働力</p> <p>人口約1億人・平均年齢33歳と若い人材が豊富</p>	<p>物価・雇用コストの低さ</p> <p>物価は日本の半分ほどで平均月収は約4万円</p>	<p>安定した経済成長</p> <p>2022年GDP成長率8% 2023年も5%以上の成長見込み</p>
--	---	--

ベトナム進出3つの注意点

<p>不十分なインフラ設備</p> <p>交通網が整備されており都市部では決済が現金</p>	<p>不安定な政策と法令</p> <p>政府決定の現場まで手続が遅く担当者により手続が異なる事も</p>	<p>離職率の高さ</p> <p>1年間の稼働率は19.4% 4人に1人は3回以上稼働履歴あり</p>
---	---	--

【参考文献】

外務省：

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ecm/ec/page22_003410.html

JETRO（日本貿易振興機構）：

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/01/2d6c5403da3d1f30.html>

<https://www.jetro.go.jp/world/reports/2022/01/e98672da58f93cd3.html>